

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	独自の理念を職員から募り作成し、名札の中にも入れ職員全員が毎日の申し送りに復唱し確認する。理念は地域とのかかわりやその人らしく生活すること安全を重視した内容の理念である。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念を毎日復唱することで意識づけされている。採用時には必ず理念を認識してもらっている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族には訪問時などに繰り返し伝える。また、地域のイベント(幼稚園の運動会、敬老会)などに参加し、蜂須賀荘だよりなど情報を提供している。情報誌蜂須賀荘だよりを3か月に1回発行し家族、町内会、民生委員、他のグループホームに配布している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩や買い物、理髪などに出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わす。幼稚園児が手作りのカレンダー等を作り入居者に手渡し、仲良く話をされている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地区の幼稚園児や中学生、四国大学生が教育実習として来られ入居者との交流を図る。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議に民生委員、町内会会長、婦人会に参加していただき意見を取り入れている。	○	地域の老人会との交流を図り、地域貢献に努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、評価で表出された課題について改善計画を立て、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告し、具体案の検討や実践につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでの評価結果を基にし、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。利用者の家族、町内会会長、民生委員等の参加者に運営推進会議の意義や役割等を十分に理解していただけるよう積極的に働きかけを行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者の情報を得て、研修などに参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、また、広報等の資料によりその必要性を関係者と話し合い支援を行っています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされる事のないよう勉強会、ミーティング等で高齢者虐待防止法をよく理解し実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者の家族などの不安や疑問点を尋ね、丁寧に事業所でできる事とできない事を説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者のご家族等が苦情や意見を出しやすいよう働きかけている。例えば玄関に御意見箱を設置している。意見や苦情についての検討は職員が一同で行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「蜂須賀荘だより」を発行し、写真や行事の写真を載せ本人の様子などを報告したり、郵送している。また、金銭管理者は小遣いの明細を毎月送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問時には何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに気をつけている。意見、要望などはミーティングで話し合っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員全員がミーティングを行う。また、勉強会も月1回行っている。勉強会は当番制により全員が担当する。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務シフトは職員の希望も配慮しつつ、余裕をもった勤務の調整ができている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代による入居者へのダメージを防ぐため、入居者の対応の仕方や情報を、新しい職員へは十分説明し、入居者に不安を与えない心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を作り、介護サービスの向上に役立っている。報告書は全職員が見る事ができる。研修などで取得した技術、知識などは申し送りや報告したり、勉強会を設けている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の運営推進会議などに出席し、サービスの向上に取り組んでいる。研修や相互評価などにて他の事業者から話を伺い、良いところを取り入れている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスや疲労などの要因に気を配り、個々に話し合う機会をもつよう努めている。休憩室があり1日2回の休憩時間を設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向け支援を行っている。資格取得に向け勉強会(時間外)を週1回実施している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居開始前までに事前面談を本人、家族と共に行い、生活状態を把握するよう努める。本人の話をよく聴くことも大切にし、家族の思いを受け止めるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をゆっくり聞き、家族が求めているものを理解し、信頼関係をつくることにつなげている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じて必要かどうかを見極め、できることはすぐに実行し、できないことも簡単にあきらめず対応に努めている。	○	本人、家族の方の意見は大切に受け取り、すべてを抱えこむのではなく、できる限り改善していけるように努める。また、できないところも普段から考えて対応に努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の方に施設を見学していただいた際に、本人の趣味または関心ごとなどを家族に尋ね支援に役立てている。施設の雰囲気に馴染んでいただけるように支援し、また、入所した際も職員、他の利用者の方と触れ合い、時間をかけて安心した生活をしていただけるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の方と共に生活し、レクリエーション、散歩、食事等日々を一緒に暮らし喜怒哀楽を共にしている。職員、入居者と意識せず、食事、洗濯などできることは、協力し、散歩、レク等和やかな生活が送れるよう心がけている。	○	職員と利用者の関係との意識をせず、食事、洗濯などできるところは協力し、散歩、レク等和やかな生活が送れるように声かけする。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設で行った行事、レク、日々の様子を写真にし、居室に貼ったり、また、ご家族に送ることで情報を提供し、ご家族と同じ思い出をもてるよう支援しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お盆、お正月等自宅に帰られたり、また、お墓参りに行かれたり、それ以外でも食事、散髪に外出されたりしてよりよい関係を継続できるよう支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別レク等で担当の職員が付き添い、本人の行きたい場所に行ったり、家族の方と一緒に散髪に行かれたり、途切れないように支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を理解し、利用者が孤立せずに参加できるような趣味を取り入れたり、レクリエーションを行うなどしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された入居者やご家族が遊びに来られるなど良い関係を継続しています。病院に入院されたり、他の施設に移られた方には訪問しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの意向や暮らし方の希望を把握し、支援するよう努めている。退所された入居者や家族の方が遊びに来られるなど良い関係を継続しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身からの話しや、ご家族の訪問時等にも参考になる情報をいただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態、残存能力など現状を把握する為に介護日誌に記録し、申し送り時に伝達し対応する。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族、職員が話し合いケアのあり方について本人が暮らしやすいようにケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間内でも見直しに必要な変化が生じた場合は、ご家族、関係者などと話し合い現状に応じた新たな計画を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分摂取量、排泄チェック表等を作成し、入居者の日々の暮らしの変化をいつでも確認し、気づき、対応できるように努め支援しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイケアにあるリハビリ室を使用し、機能訓練を行ったり、老健の行事に参加する事ができています。また、グループホームから老健に入居した方への訪問など退所後も交流が続いています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の大学生の方に音楽療法をしていただいたり、消防の方に協力を得て避難訓練を行ったり、納涼祭ではボランティアの方と協力しながら支援しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の老健のPTやケアマネージャー、ご家族と話し合い、病院でのリハビリを受ける等の支援をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等に参加していただき、よりよい介護、支援ができるよう意見をいただいています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の馴染みの医師、かかりつけ医により継続的に受け入れられるよう、家族の希望する医師に医療を受けられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体が精神科の川内病院であり、職員が相談したり認知症に関する診断や治療を受けられる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常勤し、利用者の健康管理を把握し、支援している。また、訪問看護の方も来られて支援を受けています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入退院する際、お互いにサマリーを提供し、病院関係者とは頻繁に連絡、報告を行い相談を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者一人ひとりのご家族から、重度化した場合の対応を書面で確認しており、本人、家族やかかりつけ医と連携しています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の利用者に対して安全と安心を確保したよりよい暮らしを支援する為、何ができるかを考え、かかりつけ医、医療との連携、介護職員もチームとして支援に取り組む準備を行っている。	○	利用者の為にどうしたら安全安心に過ごしていただけるか医療との連携を行い、介護職員と看護職員が一丸となって、チームづくりを目指していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の環境の変化を最小限にする為、ケアプランやこれまでの情報を伝達し、ダメージを防いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳・プライバシー保護の業務マニュアルに基づいて人権を尊重した言葉かけや対応を行っています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者とコミュニケーションをとり、その方が感心、興味のある事を聞き実現できるよう支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当日に行事等が予定されていても、本人の希望や体調等を考慮し、決して強制しないようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の求める化粧品を買い物時に選んだり、カットが必要な方は希望する店でしていただけるよう支援したり、家族の協力を得ています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時には入居者と職員がともに同じ机で話をしながら楽しく食事をしています。また入居者が食べたいもの等を買って一緒に買いに行き、好きな時に召し上がっていただいています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の嗜好品を購入し、希望時に召し上がっていただけるようにしています。喫煙は火の管理が困難なため時間を決め、決められた場所で喫煙してもらっています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄介助が必要な入居者には排泄パターンを把握し、排泄チェック表を用いつつ対応することで快適な生活ができるよう支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回デイケアの大浴場(温泉)を利用し、楽しんで入浴できるよう努めています。普段の日は当施設の浴室にて、本人の希望にてゆっくりと入浴されています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転されている方はなるべく日中活動できるよう支援し、夜にゆっくり休んでいただけるようお声かけしています。また、より安眠されやすいよう居室の温度にも気をつけています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者全員が、それぞれにできる役割があり、日課として達成できた時には達成感がわくようシールを貼っていただくなどしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売や買い物時など、本人が直接お金を支払うなど社会性の維持につながるよう工夫しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気軽な施設外を散歩をしたり、菜園では草むしりや畑の収穫などをしていただいています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が希望する思い出の場所(墓参り、自宅等)に行けるよう計画を立てて職員の勤務を調整しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出す際、入居者の写真も一緒に添えて家族の方に送っています。字を書けない方にはその方が話して下さった言葉を隣で手紙に書き、最後に入居者に名前を書いていただくなどしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が面会に来られた際には入居者本人に報告し、居心地のよい空間を保つよう努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員、月に一回勉強会を開いており、身体拘束しない事を実践しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の南側が交通量の多い道路のため、数人の徘徊される方の安全を考えて、以前は鍵をかけていたが、鍵をかけないよう、職員がミーティングで話し合い、職員の少ない早朝と夜間のみ鍵をかけています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員全員が、玄関内のチャイムが鳴ったら迅速に対応するよう努力しており、安全にも気を配っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等危険性のある物は管理しているが、ハサミ等入居者が使う時にはすぐ渡せるようにしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会、救急法、避難訓練など緊急時にも即座に対応できるよう日頃から取り組んでいます。火災を防ぐため喫煙時のみライターを手渡しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会で救急手当や蘇生術の訓練を行っており、緊急時のマニュアルも用意しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年に4回行われており、事前に職員や警察、消防へ連絡し、協力していただけるよう配慮しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては事前にカンファレンスで話し合っています。発熱、事故等があった場合等は家族に報告しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、常に顔色や様子に注意し、少しでも変化に気付いたときには、申し送りをし状態を把握できるように対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどの薬を服用しているか、副作用は何かなど分かるようにファイルを作っています。服薬時は本人に手渡しし、自分で飲めない方は介助しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食欲がない人には便秘を疑ったり、排泄表があり何日間排便がないか一目で分かる工夫をしています。また、水分補給や適度に運動を行っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけし残存能力を活かしながら歯磨きをしています。自分でできない方には介助を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を毎回記録し、また、摂取量の少ない方にはメイバランス(総合栄養食品)や嗜好品を摂っていただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いを徹底し、清潔を保つようにしている。また、各マニュアルがある。天気の良い日に座布団、布団一式等を干している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清掃や調理器具の衛生管理をしている。また、食材は厨房から毎回安全な物の供給がある。台所用品、食器などは食器乾燥機で乾燥している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に椅子を置いている為ゆっくり靴を履いていただいたり、ガラス張りの為、中から外を眺める事ができる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはロールカーテンがあり、強い日光の時はロールカーテンを下げる事ができる。また、玄関先には花を置いて季節感を採り入れています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にテレビとソファー、マッサージチェアを置き、誰でもが使えるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望でソファやテレビを家族と相談し、持って来てもらったり、家族の写真を壁に貼って本人が居心地よく過ごしていただけるように工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の換気は天窓を利用したり、入居者の体調も考慮し、エアコンの温度を調整しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床がクッションフロアで手すりがトイレ、浴室、廊下にも付いている。トイレ、廊下や居室が広い為、車椅子の方でも移動しやすい。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の解らない方には目印をつけたり、扉に大きく名前を書いています。トイレやホールの解らない方には誘導しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	菜園やベランダにプランターを置いて季節の花や野菜を植えて、入居者と一緒に水やりをしたり収穫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設のデイケアにある機能訓練室で上下肢のリハビリを積極的に行い、入居者の残存能力と向上心を高めていけるように支援しています。また、ご家族との連絡も密にとり入居者の生活状況や心身の状態の変化や楽しみ、不安に感じておられることを理解していただけるようにしています。看護職員が常勤しているため、身体的異常等には、敏速に対応し、疾病の早期発見ができる。お預かりしているお小遣いも、各人の預金通帳を作り、用途用途と残金が明確にわかるように毎月書面でお知らせしています。